

# 県外派遣報告書

（社）栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第53回全国中学校バスケットボール大会	開催地	香川県高松市 善通寺市 三豊市
報告者名	岡龍哉	派遣期間	令和5年8月20日 ~ 8月24日
講師	東條輝正 加藤暁生 福岡敏徳 武田亜沙美 市川雄介 岩月遼司 古畑咲 赤羽沙耶		

8月21日(月)14:00~17:00

【審判会議】	
研修1	<p>「研修会テーマ設定の意図・大会運営にあたって」                      (「マンツーマン・ディフェンスに関する規則」を含む)                      (東條輝正氏・加藤暁生氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判員としての行動規範の確認(試合の準備をしっかり行う)</li> <li>・インテグリティに関して→映像にもSNSにも残る。ルールに則り粛々と判定する。</li> <li>・特に初日はリーグ戦で、得失点差も関わってくる。最後の1秒まで丁寧に判定する。</li> <li>・香川県の中学生在がTO・・・中学生たちが「全中を手伝ってよかった」「面白かった」と思って帰れるようにしたい。</li> <li>・マンツーマンペナルティについて</li> </ul> <p>黄旗・・・ペナルティなし、赤旗(1回目)・・・警告、オフェンス側のスローインで再開、(2回目)・・・FT1ショット、スローインラインからのスローイン</p>
研修2	<p>「コール・ザ・オヴィアス」~コール・ザ・インパクト、ベーシックなプレーコーリング~                      (福岡敏徳氏・武田亜沙美氏)</p> <p>◎分かりやすく、的確な判定を積み重ねること→ゲームコントロール、ナイスゲームにつながる！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレーコーリングガイドライン2023の確認(チームや一般の方まで確認している人は多い)</li> <li>・イリーガルシリンダー(オフェンスのシリンダーを犯しての接触)・・・これを放っておくと逆にオフェンスが肘を使ってUFに繋がることも・・・、ゲームをクリーンにするためにシリンダーの見極めが大切。</li> <li>・FOMを犯すイリーガルな手の使い方を判定する。・・・ボールを保持するプレーヤーだけでなくオフボールのプレーヤーに対しても注意してみる。</li> <li>・イリーガルスクリーン・・・止まっているか、視野の外からは1歩距離を空けてフェンスがよける距離をとっているか。ディフェンスがスクリーナーを押ししたり、ダイブするものを掴んだりシンプルにディフェンスファウル</li> <li>・プロテクトシューター・・・怪我につながる恐れがあるのできちんとファウルを判定する。</li> </ul> <p>シューターが着地するまでの接触→プッシング                      着地点に入り込んだ接触→ブロッキング</p>
研修3	<p>「コール・ザ・オヴィアス」~3PO メカニクスからの分析~                      (市川雄介氏・岩月遼司氏)</p> <p>3POメカニクス・・・全国の誰とクルーを組んでもゲームを正しく判定していくための動き                      【映像での確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジションアジャスト                          常にオープンアングルを維持するために、プレーに合わせて位置を変えることが重要。                          (しっかり走って止まってプレーを見る。アングルをとる。)</li> <li>・プライマリ                          エリアとアングル。プライマリアreaとアングルを明らかにもっているレフェリーが判定。ダブル・トリプルコールは判定が割れることもあり。(見ていないエリアができていても・・・)</li> <li>・3or2・・・FUL確認。判定が割れた場合、確認してヘルプ側の意見を尊重する。</li> <li>・ブロックofチャージ・・・プライマリアreaの確認を。2人で鳴ったらホールド。ブレードを防ぐ。</li> </ul> <p>審判をやっていてよく出てくる反省・・・「あっ!と思った時には鳴らせなかった。」「もっと手の使い方、体の寄せを整理すればよかった。」→<b>明らかなものをなぜ鳴らせなかったかを振り返ることが大切。</b></p> <p>原因(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールマンディフェンスは見ているがカバーディフェンスが見えていない。</li> <li>・トランジション中にプレーから目を離している。ミスマッチに注意していない。</li> <li>・リバウンドで自分が見るものを準備できていない。</li> <li>・ローテーション中など3人のポジションが整っていない時。→3人の強力なクルーワークが大切。</li> </ul>

# 県外派遣報告書

一社)栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第53回全国中学校バスケットボール大会	開催地	香川県高松市 善通寺市 三豊市
報告者名	岡龍哉	派遣期間	令和5年8月20日 ~ 8月24日
講師	東條輝正 加藤暁生 福岡敏徳 武田亜沙美 市川雄介 岩月遼司 古畑咲 赤羽沙耶		
研修4	<p>「処置ミスゼロをめざして」~オフィシャルズとの連携と役割~                  (古畑咲氏・赤羽沙耶氏)                  ゲームを公正・円滑に運営すること→信頼につながる                  大切なこと…ルールを理解し、確認すべき様々なこと(・クロック・No.コール・ファウルの数・FTの数                  ・シューターピック・同時刻入退場)を<b>普段から意識して取り組む。</b></p> <p>どんな時にミスが起こるか                  ・シーソーゲーム                  ・ノイズ                  ・前の判定を引きずる。など</p> <p>様々なシチュエーションを共有(プレーカンファレンスでもクルーで共有すると良い。)                  想定しておくことで、いざ何かあった時すぐに対応できる。</p>		

## 担当ゲームに関して

8月22日(火)

審判員名	CC岡龍哉 U1 井上慎也(香川) U2廣石真奈美(香川)		
カード	女子1回戦 13:30 高南(大阪)68-65盛岡白百合(岩手)		
ゲームについて	会場	三豊市総合体育館	
<p>PGC(プレゲームカンファレンス)は基本的なメカニクスの確認、プレコーリングガイドライン、マンツーマンルールの確認を行なった。ゲームは互いに積極的なディフェンスを仕掛けることからスタートした。一生懸命守っているがイリーガルな体の触れ合いを見極めるようクルーで協力して判定した。クルーでクロックやショットクロックは、アイコンタクトの確認は一試合通して丁寧に行なった。白の手の出し方、赤の体の寄せの中でもっとCCとして笛を入れたり、クルーに共有することをCCとしてできるとよかった。ゲームは一進一退も攻防が続いたが、赤の8番ビッグマンを効果的に守った高南が勝利した。互いに積極的な守りからのファストブレイクは見応えがあった。</p>			

8月23日(水)

審判員名	CC川井剛(鹿児島) U1 岡龍哉 U2坂之上拓也(鹿児島)		
カード	男子2回戦 10:50 北見南(北海道)51-68東北学院(宮城)		
ゲームについて	会場	香川総合体育館	
<p>PGCではゲームを進める上での基本の確認と、ハーフライン付近でのトラップが仕掛けられた時の対応を確認した。ゲームは序盤から東北学院の3Pが効果的に決まりリードし続けた。北見南も積極的なトラップからスティール、ドライブからの合わせが上手であった。互いに多少のコンタクトはあれどバランスを崩すことなくコントロールできるので、イリーガルで影響が明らかにあるものをファウルとして取り上げていったが、判定の場所やアングルをもっといい位置で判定することで、もっとファウルとして取り上げたり、逆に笛を入れなくてもよいところもあった。ゲームは東北学院が勝利したが、北見南は高身長の手がいない中、小さいチームが戦う手本になるようなチームであった。</p>			